

幼珠連通信

全国幼児珠算教育連盟

〒570-0012大阪府守口市大久保町5-7

事務局長 大西 信二

2歳で言葉がない子・増えない子

「様子を見る」のは危険です。 会長 井上 文克

著書は、さいたま市教育相談センター所長金子保書（2008年6月10日（株）メタモル出版 03（3234）5743、定価1500円）の題名です。講演を聴き購入、一読して、驚きと、悲しみに頭が割れそうになりました。そして、私の米寿記念に金子保式全人格発達方法を世の中に広めるお手伝いをさせていただきたいと決心しました。

老年で微力ではありますが、私なりに努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。先づ、小路幼稚園に、言語生活の研究会を設け、子供の言語について悩んでいる方に、金子保式全人格発達方法を知っていただき、共に学ぶ場を持つことにします。

この本で私が最も衝撃を受けたのは、第一章「30年前」とはまったく違う子どもの様子、学校の様子、（1）「今、小学校には1学級に4～5人の障害児がいる」

（本書より掲載させていただきます）昔は各種の障害児の出現率は2～3%で、特殊教育（特別支援教育）の該当者でした。現在は地域格差がありますが、埼玉県調査（平成17年1月発表）によれば県平均で約15%（都市部で約18%）が障害児である（問題行動児を含む）との結果が出ています。これは大変な数字です。（埼玉県都市部の調査結果）

・小学校 11.7%（学習障害児7.23%、注意欠陥多動性5.7%、自閉傾向児1.4%＜重複回答のため合計が異なります＞）

・盲・ろう・養護学校、学校の特別支援教育学校や特殊教育学級の在籍率・・・3%

・不登校の児童生徒（中学校）・・・約3%

●全児童・生徒に対する障害児・問題行動児合計・・・約18%

（2）「変わっている子」といわれる子どもたち

学校の先生、病院の先生の多くは、「変わった子どもが増えた」と感じています。

榊原洋一先生（医師）も「アスペルガー症候群と学習障害」（講談社+α新書）の本のなかで、「体は健康だが何か変な子どもたちの数が多くなっている」と書いています（以下略）

（3）昔はいなかった変わった子たち

今から40年に、自閉症という発達障害の子どもが現れました。それ以前は見当たらなかった子どもたちです。日本の場合、小学校入学の前に、就学指導委員会が子どもにとって適切と考えられる就学先を決定します。私はこの委員として多くの委員会に出席していましたが、自閉症児は見当たりませんでした。40年ほど前に初めて重い状態の自閉症をもつ発達障害の子が現れたのです。(以下省略) (4) 発見の手立てでは幼児期にある(省略) (5) 様子を見ては手遅れになってしまうかもしれない(省略)

この本は私が知らなかったことを次々に教えてくれます。至急、この本を手にとり、共に学び、実践の場を拡げたいと思います。

全国幼児珠算教育連盟ニュース

平成22年9月15日 第220号

珠呟 しゅげん -73-

生徒指導に「ゆっくり、じっくり、丁寧に」を

子どもが親から言われたくない言葉に「だめねえ」「ばかね」と、「早くしなさい」の3つが挙げられています。

子どもは本来自由になる時間が大人以上にあるはずにもかかわらず、「早くしなさい!」とせき立てられ、いやになるそうです。

私達の教室においても、この「早くしなさい」と生徒の行動をせかせることがありませんか。特に、低学年の男生徒の行動の遅さに閉口し、「早く用意しなさい!」と授業の開始、終了時の教材教具の準備と後片付けの遅さに、注意してしまうことがあります。

私達は限られた授業時間内で、珠算技能の効果上げるために、その言葉を発してしまいがちです。特にそろばん学習は計算力を高めることが主たる目的であり、どうしても、授業の流れを速めることになってしまいます。

しかし、生徒指導に入ると、生徒の理解度に応じて、ゆっくり、じっくり、ていねいに説明し、理解させて指導することも大切です。理解できた生徒には、計算力を高めるために、少しでも早く計算ができるように努めさせます。

現在、時代の変化は非常に速く、日常生活のうえでも、せわしなさが加速しています。ゆっくり心を落ち着けて、書き上げる手紙が電話やファクシミリ、電子メールにとって代わり、「速く、手っ取り早い」ことが価値になっています。通信機器としての携帯電話は普及し、その通話回数が年間千億回以上を超えているそうで、一日当たりに直すと約三億

回が通話され、その通話の過半数が1分以内そうです。携帯電話もせわしなくかけられ、話されていることとなります。

私達の生活にしても、多忙なスケジュールで、忙しい日々を送っていますが、できる限り、生徒、またその保護者の方と会って、ていねいに説明したり、励ましたりすることも大切で、各生徒から種々の要望や情報を聞き、適切な説得も必要なことです。

また、時には、書店などに行って、指導に関連する書蹟を手に入れて、じっくり読書したり、講習会などで人の話をじっくり聞いて、教室の運営に役立てることも必要でありましょう。また、平素、お世話になっている方や近隣の方とじっくり手をかけ、時間をかけ、報いることも大切なことであり、減速の価値もたまには思い出しましょう。

全国幼児珠算教育連盟ニュース

平成22年9月15日 第220号

上海の障害児教育の学校を見学して

大西 信二

平成22年7月25日～28日、中国珠算教育問題研究会(大谷茂義会長)主催による上海万博日中珠算文化交流団として、上海の障害児教育の董李鳳美康学校見学と南通市の中国珠算博物館見学をしました。その模様を報告します。

7月25日、日本の大学に留学経験のある藩氏のガイドと通訳により、一番目の目的である董李鳳美康学校を訪問しました。

同校は小学1年生から6年生の障害児教育学校で、私達を歓迎を表示する「熱烈歓迎、訪中日珠算文化交流団」の横断幕を掲げ、上海珠算協会の張会長・董李鳳美康学校の容校長らに迎えられて校内に案内される。

障害を持った生徒達であるが、どの生徒も表情は明るく、指導されている先生方の素晴らしい指導力を見ることができた。障害児を一人一人を大切に指導され、特にそろばんを活用して生徒の学習意欲と身体矯正を高めておられることに感銘を受けました。これは、上海珠算協会の指導を受けた美康学校の先生方が障害児の指導に当たられ、素晴らしい成果を上げておられることを知りました。

まず、董李鳳美康学校 容校長の歓迎の挨拶、日中珠算文化交流団大谷団長の訪問の挨拶などを交わした後、叶副校長から学校の指導状況等の説明があり、スライドを使って詳しく指導内容の説明をしていただく。

続いて、同校卒業生の障害児を伴った保護者(母親)が、私達交流団に同校の温かい指導によって矯正、回復した我が子について語られた。

そろばんという素晴らしい矯正用具によって、我が子が障害を乗り越えて、暗算で計算

することができることや、そろばんで繰り返して練習することによって、動かない手が動くようになったことなどを報告される。さらに、その障害児の頭の中にあるそろばんで計算ができるようになったことも披露された。そろばんが 唯の計算器具だけでなく、知能・身体機能を矯正する器具として活用されていることに驚き、そろばん学習の効用の拡がりを知らされる。特に、我が子の障害を克服した状況を語る母親はそろばん器具のすばらしさを切実に語られる姿が印象的であった。

その後、同校の生徒と訪問した日本の子どもとの交流の場もたれ、日本の子どもがフラッシュ暗算により暗算力を披露し、そろばんによる暗算力の素晴らしさを観ていただく。さらに、同校の障害児達による歌と踊りの発表があり、私達を歓迎をしてくれるとともに、私達の旅の疲れを和ましていただいた。感謝のお礼の挨拶の後、同校の正門に掲げた熱烈歓迎の垂れ幕の下で、全員がひとつになって記念写真を撮り、学校を後にする。

障害児に対するそろばん学習に研鑽されている上海珠算協会の先生方のご努力に敬意を表すると共に、そろばん学習の活用の拡大により勉強をさせていただいた。

全国幼児珠算教育連盟ニュース 平成22年9月15日 第220号

【教育ひとくちメモ】 - 3 -

生徒の皆さんが楽しくそろばんを学習するために、生徒のみなさんの頑張りは当然ながら、保護者の皆さんのご理解とご協力がなければ、珠算振興を推進することができません。お子様の教育について、保護者のみなさんに教室からサポートする「教育一口メモ」をシリーズとして紹介しています。

【教育ひとくちメモ】 <5>

大人の責任を自覚し、子どもの行動に注意を！

最近、「ゲーム脳」という言葉がよく言われます。テレビゲームの影響によって、人間の理性的な判断をつかさどる脳の^{前頭前野}と呼ばれる部分の機能が低下するのではないかと考える説から生まれた言葉です。

脳の働きとテレビゲームの関係は、まだ、完全には明らかになっていませんが、スグにかっとなつて暴力をふるったり、危険な行為をする若者や子ども達が増えている現実があります。

その原因は何か。ゲームに限らず、テレビやDVDなどの過激な映像や、インターネットや携帯電話を通して、押し寄せてくる情報など、青少年をとりまく、色々な環境に関心を持ち、行動していくことは、社会の責任であり、大人の責任と言えます。子どもに自転車の乗り方を教えるときに、ブレーキのかけ方を教えないければ、大変なことになります。基本的な交通ルールを教えることも必要です。おもしろいこと楽しいことであっても、ブレーキをかけなければならないときがあることをしっかりと教えるのが大人の役割です。子どもの周りにいる大人は、危険にも鈍感にならず、常に、適切な歯止めをかけることのできる社会でなければなりません。

【教育ひとくちメモ】 <6>

人の気持ちをわかり、思いやりのある子どもに

最近、電車の中や外出先で、不快な気分させられることが多くあります。禁煙にもかかわらず、平気でたばこを吸う人、吸い殻やゴミを道に捨てる人、電車の中での携帯電話で会話する人、等、自分の世界に入り込み、まわりの迷惑を気づかない大人が増えています。

ある臨床心理学者が、小学生を対象に調査した結果です。

1枚の絵に、子ども部屋から雨の降っている空を悲しげに見上げている男子が描かれ、そばには リックサックや地図が置かれています。

この絵を見て、小学生の多くが、「雨が降っている」「地図がある」「雨が降って遠足に行けない」と説明します。

さらに、「悲しがっている」「残念に思っている」と、心理状態まで、表現することが少なくなってきたとの調査結果があります。

最近、子どもだけではなく大人も自己主張や現状分析をする能力は高くても、人の気持ちを思いやり、想像する脳力が劣ってきたと分析されています。

自分の行為が他人に不愉快にさせていないかを考え、まわりを思いやる子どもを育てたいものです。

お知らせ・「幼珠連通信」は諸般の事情により、ネットのみ掲載となりました。